

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県健康の森学園支援学校	実践者名	高等部3年
実践場面 (教科)	作業学習		
単元・題材 名	「学期の作業収め（納会）をしよう」		
学習目標・ ねらい	・自宅待機の生徒の学習保障をする。 ・作業学習で頑張ったことや嬉しかったことを、友達や施設の先輩に発表することができる。		
対象の児童 生徒の実態	・持ち帰り端末を使って、自分で Zoom に接続して遠隔授業に参加することができる。 ・原稿などがあれば、1人で発表を行うことができる。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
○自宅待機中の生徒が1人1台端末を持ち帰り、家庭から学習活動に参加する。 ※発表原稿は、生徒が帰宅する前に学校で作成済み。			
※使用したアプリや機器：Zoom、1人1台端末（教員用、生徒用） ポケットWi-Fi、スピーカー			
 			
1. 自宅待機になった生徒が帰宅する際に、1人1台端末を持ち帰る。 その際、ZoomのID・パスコードと接続時間を伝えておく。			
2. 担任が貸出のポケットWi-Fiを準備する。			
3. 学期の作業納めは屋外での活動である。 そのため、接続時間までに担任が教員用1人1台端末をポケットWi-Fiに接続する。 端末のBluetooth機能でスピーカーに接続する。			
4. 接続時間になったら、担任がZoomを開く。 自宅待機中の生徒がZoomアプリを開き、IDとパスコードを入力し、Zoomに参加する。			
5. 生徒が発表原稿をもとに、作業学習の振り返りを発表する。 自宅待機中の生徒の順番が来たら、合図を送り、発表を行う。			
6. 施設の利用者や他の生徒の発表を聞く。			
7. 学習終了後、学級の友達とあいさつやコミュニケーションを交わす。			
活用のポイント・改善策等			
・必要に応じてすぐに貸出を行うことができるように、事務室でポケットWi-Fiを管理する。 ・当日の朝、遠隔で朝の会を行うときに、接続時間や活動内容などを伝え、再確認する。 ・接続できない場合は、学校（担任）に電話することを事前に伝える。			
○自分で Zoom に接続したり発表を行ったりすることが難しい実態の生徒であった場合等の実施方法を検討していく必要がある。			

